

予防開発部

(1) 構成員

部長 下方 浩史

室長

長期縦断疫学研究室 欠員

予防栄養研究室 大塚 礼

流動・研究開発研究員

西田 裕紀子 丹下智香

加藤 友紀 李 成喆

森山 雅子 富田 真紀子

客員研究員

森 圭子 新野 直明

甲田 道子 大藏 倫博

福川 康之 安藤 富士子

今井 具子

研究生

坪井 さとみ 山口 孝子

野村 秀樹 中西 千織

松田 淳平 相澤 博子

道用 亘 服部 恵美

梶岡 多恵子 小坂井 留美

北村 伊都子 金 興烈

西尾 直樹

研究補助員・事務補助員

戸田 佐江子 堤 洋子

稲田 嘉子 坂野 和徳

穴戸 弥生 金森 久美子

永田 千佳 田中 美千代

構 実千代 松川 昌子

鳥居 三重子 神野 順子

岡本 桂子 矢田 智子

種子田 雅子 真田 三幸

加島 直子 鳥居 久美子

廣瀬 由美子 岩田 由喜

本多 由子 前馬 恵子

近藤 緑 佐野 まゆみ

鈴木 洋子 竹内 恵里子

山本 広美 黒田 春美

田中 江美香 芳本 里佳

赤井 菊美 井上 奈津子

森 あさか 荻久保 吉隆

佐宗 敬泰 向井 史昭

竹内 奈津子 小島 啓資

近藤 希実 黒田 洋佑

小林 達也 村松 愛梨奈

槌谷 佳世 三輪 泰子

沢田 光代 栗本 佳奈

高緑 笑花 中川 舞

有馬 正道 西岡 みなと

岡田 章宏 安田 淑恵

岩尾 真奈美 高橋 麻紗子

間瀬 加奈子 小笠原 仁美

百瀬 知奈 近藤 久美

志満津 仁子 長森 由紀子

(2) 平成 22 年度研究活動の概要

予防開発部は認知症の要因となる生活習慣や社会的背景、糖尿病や動脈硬化などの基礎疾患について疫学調査により研究して、認知症の予防法の開発研究を行っている。

予防開発部では老化の進行や認知症などの老年病の経時的変化をとらえることの

できる縦断疫学研究を主体に研究を進めている。長寿医療研究センターの施設内での「国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)」の実施、運営、データ解析が主たる研究活動であり、平成 22 年度には医学・心理学・運動生理学・形態学・栄養学・分子疫学などの各分野で、老化、老年病、特に認知症の要因や予防に関連する数多くの研究成果をあげた。また収集したデータをまとめてモノグラフをインターネット上に公表した。

予防栄養研究室は加齢に伴う疾患と栄養との関連についての疫学調査や研究を行うとともに、栄養疫学的手法によって認知症の予防法の開発をめざしている。平成 22 年度は、特に脂肪酸等の微量栄養素が認知機能の改善効果をもつかどうかの検討を実施するとともに、中高年期の食生活とメタボリックシンドロームとの関連の研究なども行った。

予防栄養研究室:大塚 礼

疾病及び加齢に伴って生ずる心身の変化の予防に係る栄養疫学的調査研究

予防栄養研究室は疾病及び加齢に伴って生ずる心身の変化の予防に係る栄養疫学的調査を行うことを目的として研究を行っている。平成 22 年度は 1) 脂肪酸等の微量栄養素の認知機能改善効果に関する研究と、2) 中高年者における食塩摂取量の推移について主に研究した。

1. 脂肪酸等の微量栄養素の認知機能改善効果に関する研究

認知機能改善効果を有する可能性が報告されている多価不飽和脂肪酸(EPA:エイコサペンタエン酸、DHA:ドコサヘキサエン酸、ARA:アラキドン酸)に注目し、認知機能低下との関連を検討した。地域住民を対象とした長期縦断疫学調査(NILS-LSA)の第 1 次と第 5 次調査に参加し、第 1 次調査で認知機能得点 MMSE(0-30 点)が 28 点以上であった 60 歳以上の男女を対象とし、第 5 次調査で MMSE が 27 点以下の者を認知機能低下群とみなした。EPA・DHA・ARA 摂取量は 3 日間食事秤量記録調査から算出し、それぞれ 3 群(3 分位)に分類した。脂肪酸摂取量の違いによる認知機能低下に対するオッズ比を多変量調整後、検討した。男性では中等度摂取群(第 2 分位群)を基準とすると、ARA の低摂取(オッズ比 2.96)および高摂取(オッズ比 2.67)が認知機能低下と関連した。EPA、DHA 摂取量と認知機能低下には有意な関連が認められなかった。今後検討を重ね、認知

機能低下予防に関連する脂肪酸を明らかにし、脂肪酸等の微量栄養素の認知機能改善効果の検証を通して、微量栄養素による認知症予防を目指した栄養疫学研究を実施する予定である。

2. 中高年者における食塩摂取量の推移についての研究

近年、中高年群において食塩摂取量が低下していることが報告されているが、同一個人を対象とした縦断的な食塩摂取量の推移は明らかでない。本研究は NILS-LSA 第 1 次～第 5 次調査の全ての食事調査に参加した 40 歳以上の男女について、年齢群別(40、50、60、70 歳代)の食塩摂取量を縦断的に検討した(8 年間の推移)。食塩摂取量は男性では各年齢群で-0.16g/年から-0.08 g/年低下していた(40 歳代 $p=0.057$ 、その他の年齢群 $p<0.05$)。女性の 70 歳代では-0.08g/年($p=0.098$)低下していた。エネルギー摂取量を調整した場合、これらの低下傾向は男性 60 歳代でのみ認められた。同一集団における年齢群別の食塩摂取量(粗値)は、男性では全年齢群で低下もしくは低下傾向、女性では 70 歳代でのみ低下傾向を示した。

研究業績(予防開発部)

I. 論文発表等

1. 原著

Yoshioka M, Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, Nomura H, and Nakashima T:
The impact of arterial sclerosis on hearing with and without occupational noise exposure; a population-based aging study in males.
Auris Nasus Larynx, 37: 558-564, 2010.

Sugiura S, Uchida Y, Nakashima T, Ando F, and Shimokata H:
The association between gene polymorphisms in uncoupling proteins and hearing impairment in Japanese elderly.
Acta Otolaryngol, 130: 487-492, 2010.

Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Shimokata H, and Nakashima T:
Association of the C677T polymorphism in the methylenetetrahydrofolate reductase gene with sudden sensorineural hearing loss.
Laryngoscope, 120: 791-795, 2010.

Otsuka R, Imai T, Kato Y, Ando F, and Shimokata H:
Relationship between number of metabolic syndrome components and dietary factors in middle-aged and elderly Japanese subjects.
Hypertens Res, 33: 548-554, 2010.

Miyasaka K, Hosoya H, Tanaka Y, Uegaki S, Kino K, Shimokata H, Kawanami T, and Funakoshi A:
Association of aldehyde dehydrogenase 2 gene polymorphism with pancreatic cancer but not colon cancer.
GGI, 10: S120-S126, 2010.

Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Nakashima T, and Shimokata H:
Diabetes reduces auditory sensitivity in middle age listeners more than in elderly listeners: A population-based study of age-related hearing loss.
Med Sci Monit, 16: 63-68, 2010.

Uchida Y, Sugiura S, Nakashima T, Ando F, and Shimokata H:
The Ala54Thr polymorphism in the fatty acid-binding protein 2 (FABP2) gene is associated with hearing impairment: a preliminary report.
Auris Nasus Larynx, 37: 496-499, 2010.

Doyo W, Kozakai R, Kim HY, Ando F, and Shimokata H:
Spatio-temporal components of the three-dimensional gait analysis of

community-dwelling middle-aged and elderly Japanese: age- and sex-related differences.

Geriat Gerontol Int, 11: 39-49, 2011.

Sugiura M, Nakamura M, Ogawa K, Ikoma Y, Ando F, Shimokata H, and Yano M:
Dietary patterns of antioxidant vitamin and carotenoid intake associated with bone mineral density: findings from post-menopausal Japanese female subjects.

Osteoporos Int, 22: 143-152, 2011.

Uchida Y, Sugiura S, Ando F, Nakashima T, and Shimokata H:
Hearing impairment risk and interaction of folate metabolism related gene polymorphisms in an aging study.

BMC Med Genet, 7: 35, 2011.

竹村真里枝, 松井康素, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:

一般住民における動脈硬化と骨粗鬆症の関連.

Osteoporos Jpn, 18:228-231, 2010.

森山雅子, 杉本英晴, 谷伊織, 五十嵐素子:

女子学生の学業成績に抑うつと睡眠-覚醒パターンが与える影響.

精神医学, 53:257-262, 2011.

杉浦彩子, 内田育恵, 下方浩史, 安藤富士子, 中島務:

地域在住中高年者における難聴と酸化ストレス関連遺伝子に関する縦断的疫学検討.

Otol Jpn, 21:13-22, 2011.

金興烈, 岡本敦, 島典広:

距骨下関節の回内制御におけるアーチパッドの効果.

東海学園大学研究紀要, 16:25-37, 2011.

2. 総説

下方浩史, 安藤富士子, 北村伊都子:

地域住民における潜在性甲状腺機能異常の頻度と実態.

日本内科学会雑誌, 99:686-692, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

高齢者の健康と果物～老化を防ぐカロテノイドの効用～.

熊本果樹フルーツ&フルーツ, 47:26-31, 2010.

今井具子:

高齢者への食事バランスガイドの活用.

Great Med, 48:909-912, 2010.

大塚礼:

低栄養を防ぐー簡単・栄養改善ー～日常生活のなかで簡単にできる方法～.

Aging&Health, 54:22-24, 2010.

大塚礼, 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史:

メタボリックシンドローム構成要素の集積数からみた栄養摂取状況.

血圧, 17:822-823, 2010.

下方浩史, 安藤富士子:

疾病予防のための理想的生活.

成人病と生活習慣病, 40:1026-1031, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

高齢者の健康と果物～カロテノイドの効用～.

柑橘, 62:8-11, 2010.

安藤富士子, 西田裕紀子, 下方浩史:

認知機能の加齢変化とアンチエイジング.

MB Med Reha, 124:105-113, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

高齢者の健康と果物～カロテノイドの効用.

佐賀の果樹, 735:4-7, 2010.

下方浩史:

長期縦断疫学研究.

医療の広場, 50:4-5, 2010.

下方浩史, 安藤富士子:

運動器疾患の長期縦断疫学研究.

Progress in Medicine, 30:3021-3024, 2010.

大塚礼:

n3系脂肪酸と脂肪が多い魚の摂取は認知機能および6年間の認知機能の変化と有意な関連なし:退役軍人男性における老化に関する研究.

栄養学雑誌, 68:60, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

超高齢社会で果物が果たせる役割～老化を防ぐカロテノイドの効用～.

果実日本, 66:100-104, 2011.

下方浩史, 安藤富士子:

運動器疾患の長期縦断疫学研究.

医学のあゆみ, 236:319-324, 2011.

下方浩史, 安藤富士子:

虚弱の危険因子.

Geriatr Med, 49:303-306, 2011.

内田育恵:

加齢性難聴の疫学.

総合臨床, 60:131-132, 2011.

3. 著書, Chapters

内田育恵, 杉浦彩子, 下方浩史:

難聴の疫学. よくわかる聴覚障害－難聴と耳鳴のすべて－, 小川郁編, 永井書店, p1-6, 2010.

杉浦彩子, 内田育恵, 下方浩史:

耳鳴の疫学. よくわかる聴覚障害－難聴と耳鳴のすべて－, 小川郁編, 永井書店, p6-9, 2010.

大塚礼, 今村文昭:

食事調査法. 肥満の疫学, Frank B.Hu.著, 小林身哉, 八谷 寛, 小林邦彦監訳, 名古屋大学出版会, p78-111, 2010.

大塚礼:

食事、栄養と肥満. 肥満の疫学, Frank B.Hu.著, 小林身哉, 八谷 寛, 小林邦彦監訳, 名古屋大学出版会, p251-275, 2010.

4. その他

該当なし

5. 新聞・報道等

下方浩史:

きょうの健康, 平成 22 年 4 月号, 「中高年こそ健やかに」

下方浩史:

NHK 教育テレビきょうの健康, 平成 22 年 4 月 1 日, 「中高年こそ健やかに」

下方浩史:

日刊ゲンダイ, 平成 22 年 4 月 1 日, 「“老け顔”を治すと元気になる！？若々しさを意識して生活改善」

下方浩史:

中日新聞, 平成 22 年 5 月 21 日朝刊, 「認知症 大豆、魚に予防効果－日本老年社会科

学会「来月東浦で市民講座」

下方浩史：

中日新聞，平成 22 年 6 月 15 日夕刊，「長寿医療研究を視察 天皇、皇后両陛下 大府の施設訪問」

下方浩史：

朝日新聞，平成 22 年 6 月 15 日夕刊，「医療研究センター視察」

下方浩史：

中日新聞，平成 22 年 6 月 16 日朝刊，「長寿、健康に関心深く 天皇、皇后両陛下知多半島を視察」

下方浩史：

読売新聞，平成 22 年 6 月 16 日朝刊，「大府 国立長寿医療研究センター 両陛下、活動を視察」

下方浩史：

中日新聞，平成 22 年 6 月 22 日朝刊，「老年病予防には体を動かすこと 東浦で講座」

下方浩史：

広報おおぶ No. 958，平成 22 年 7 月 15 日，「天皇、皇后両陛下、大府をご訪問 両陛下、長寿医療研究を視察」

予防開発部：

テレビ朝日みんなの家庭の医学，平成 22 年 8 月 17 日，「目＆耳老化予防 SP」

下方浩史：

週刊文春，平成 22 年 11 月 11 日号，「肉食 vs 魚食「75 歳以上は肉！」」

下方浩史：

中日新聞，平成 23 年 1 月 12 日朝刊，「認知症予防の食習慣を紹介」

下方浩史：

中日新聞，平成 23 年 1 月 21 日朝刊，「高齢者先進的医療、ソウル大から視察」

安藤富士子：

Medical Tribune, 44(4), 平成 23 年 1 月 27 日，「サルコペニアに潜在性慢性炎症が関与」

金興烈：

Medical Tribune, 44(4), 平成 23 年 1 月 27 日，「高齢者の速歩行に性差と年代差」

下方浩史：

読売新聞, 平成 23 年 2 月 7 日夕刊, 「40 代女性スリムに」

下方浩史:

日本テレビミヤネ屋, 平成 23 年 2 月 7 日, 「スリムなアラフォー女性、20 年前より増加」

下方浩史:

読売新聞, 平成 23 年 2 月 8 日朝刊, 「30～40 代女性スリムに 厚生労働省調べ BMI「やせ」増」

下方浩史:

フジテレビとくダネ!, 平成 23 年 2 月 8 日, 「40 代女性スリムに」

下方浩史:

読売テレビかんさい情報ネット ten!, 平成 23 年 2 月 15 日, 「なぜ、30 代 40 代の痩せ型が増えているのか」

6. 特許申請, 取得状況

発明者 : 太田成男, 鈴木吉彦, 下方浩史, 安藤富士子

発明の名称: 血管障害性が関与する疾患の易罹患性の判定方法

出願年月日: 国内出願 平成 22 年 9 月 17 日

出願番号 : 特願 2004-265760

共同出願人: 太田成男, 鈴木吉彦, 下方浩史, 安藤富士子

II. 学会・研究会発表等

1. シンポジウム, 特別講演

Uchida Y:

Presbycusis: Current knowledge obtained from a population-based study on aging in Japan.

The 13th Korea-Japan Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Sep, 10th, Seoul, 2010.

Shimokata H:

Geriatrics and Health Promotion for the Elderly by Longitudinal Epidemiological Study.

Asia Aging Forum 2010, Oct, 30th, Obu, 2010.

下方浩史:

大会長講演: 老年社会科学研究と日本の将来.

日本老年社会科学会第 52 回大会, 6 月 17 日, 大府, 2010.

森山雅子:

短期大学在学中メンタルヘルスはどのように変容するのか.
第 52 回日本教育心理学会, 8 月 27 日, 東京, 2010.

加藤友紀, 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年者のアミノ酸摂取量と抑うつとの関連.
第 32 回日本臨床栄養学会, 8 月 29 日, 名古屋, 2010.

2. 国際学会発表
該当なし

3. 国内学会発表
大菅陽子, 野尻佳克, 岡村菊夫, 大塚 礼, 加藤友紀, 下方浩史, 今井具子, 安藤富士子:
地域住民における塩分摂取が夜間頻尿に与える影響についての検討.
第 98 回日本泌尿器科学会総会, 4 月 27 日, 盛岡, 2010.

大菅陽子, 岡村菊夫, 大塚 礼, 加藤友紀, 下方浩史, 今井具子, 安藤富士子:
地域住民における夜間頻尿の有症率及び危険因子に関する研究.
第 23 回日本老年泌尿器科学会, 5 月 14 日, 東京, 2010.

内田育恵, 杉浦彩子, 中島務:
突発性難聴と PRKCH 遺伝子多型の検討—「老化に関する長期縦断疫学研究」より—.
第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 5 月 20 日, 仙台, 2010.

今井具子, 大塚礼, 加藤友紀, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住女性の栄養補助食品に対する意識調査.
第 64 回日本栄養・食糧学会大会, 5 月 22 日, 徳島, 2010.

竹村真里枝, 松井康素, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:
「歩けば骨は強くなる？」—地域住民における一日歩数と骨密度との関連—.
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 27 日, 東京, 2010.

大塚礼, 加藤友紀, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年者における年齢群別の食塩摂取量の推移(8 年間)に関する検討.
第 46 回日本循環器病予防学会, 5 月 28 日, 東京, 2010.

松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:
膝関節 Xp 変形程度と膝関節痛—地域在住中高年者対象大規模コホートでの性・年代別比較.
第 83 回日本整形外科学会学術総会, 5 月 29 日, 東京, 2010.

丹下智香子, 西田裕紀子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史:
成人中・後期におけるライフイベント体験率の年代差.

日本老年社会科学会第 52 回大会, 6 月 17 日, 大府, 2010.

西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史:

地域在住高齢者の生きがいと知能－6 年間の縦断的検討－.

日本老年社会科学会第 52 回大会, 6 月 17 日, 大府, 2010.

片岡直也, 楠堂達也, 竹内環, 曾根清明, 小島基希, 小林邦彦, 安藤富士子, 下方浩史, 山下均:

動脈硬化進展における褐色脂肪細胞の役割の検討.

第 33 回日本基礎老化学会, 6 月 17 日, 名古屋, 2010.

飛田哲朗, 原田敦, 松井康素, 酒井義人, 竹村真里枝, 寺部靖人, 下方浩史:

Sarcopenia(筋肉減少症)の脊椎骨折患者における現状.

第 52 回日本老年医学会学術集会・総会, 6 月 25 日, 神戸, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

地域在住中高年女性の閉経状況、生活習慣病等の治療率・有病率に関する横断的検討.

第 52 回日本老年医学会学術集会・総会, 6 月 25 日, 神戸, 2010.

松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:

変形性膝関節症変化と身体機能の関連.

第 52 回日本老年医学会学術集会・総会, 6 月 25 日, 神戸, 2010.

大菅陽子, 岡村菊夫, 大塚礼, 加藤友紀, 下方浩史, 今井具子, 安藤富士子:

一般地域住民における夜間頻尿の年代別の有症率と危険因子.

第 52 回日本老年医学会学術集会・総会, 6 月 25 日, 神戸, 2010.

松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:

変形性膝関節症変化と身体機能の関連.

第 2 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 7 月 2 日, 宜野湾, 2010.

安藤富士子, 竹村真里枝, 松井康素, 下方浩史:

地域在住中高年者の血清カロテノイドと骨密度に関する横断的検討.

第 32 回日本臨床栄養学会, 8 月 28 日, 名古屋, 2010.

大塚礼, 加藤友紀, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史:

地域在住中高年男女における多価不飽和脂肪酸摂取量と認知機能低下との関連.

第 32 回日本臨床栄養学会, 8 月 29 日, 名古屋, 2010.

五十嵐素子, 森山雅子, 杉本英晴, 谷伊織:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(8)－学業・就職活動への取り組みと内定状況の関連についての検討－.

第 52 回日本教育心理学会, 8 月 29 日, 東京, 2010.

森山雅子, 杉本英晴, 谷伊織, 五十嵐素子:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(9)ー恋人の有無と抑うつの変動の関連ー.

第 52 回日本教育心理学会, 8 月 29 日, 東京, 2010.

杉本英晴, 谷伊織, 五十嵐素子, 森山雅子:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(10)ー入学 3 ヶ月後の女子短期大学生が所属するグループについての検討ー.

第 52 回日本教育心理学会, 8 月 29 日, 東京, 2010.

金興烈, 桜井伸二, 安 裁漢:

ランニングシューズの変形に伴う足関節挙動の変化.

第 61 回日本体育学会, 9 月 8 日, 豊田, 2010.

加藤友紀, 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史:

地域在住中高年者のアミノ酸摂取量と抑うつとの関連一年代差の検討ー.

第 57 回日本栄養改善学会学術総会, 9 月 11 日, 坂戸, 2010.

服部恵美, 渡邊智之, 川崎和彦, 森圭子, 下方浩史:

大学生のメタボリックシンドローム予防事業における食事調査の検討 1ー朝食欠食の実態.

第 57 回日本栄養改善学会学術総会, 9 月 11 日, 坂戸, 2010.

森圭子, 渡邊智之, 川崎和彦, 服部恵美, 下方浩史:

大学生のメタボリックシンドローム予防事業における食事調査の検討 2ー主食がごはんであることの重要性.

第 57 回日本栄養改善学会学術総会, 9 月 11 日, 坂戸, 2010.

西尾直樹, 日比達也, 寺西正明, 曾根三千彦, 大竹宏直, 加藤健, 吉田忠雄, 多賀谷満彦, 中島務, 内田育恵, 杉浦彩子, 安藤富士子, 下方浩史:

補体因子 H 遺伝子多型と突発性難聴との関連について.

第 142 回日耳鼻東海地方部会連合講演会, 9 月 12 日, 名古屋, 2010.

杉浦実, 中村美詠子, 小川一紀, 生駒吉識, 松本光, 安藤富士子, 下方浩史, 矢野昌充:

血中カロテノイド値と喫煙・飲酒習慣との関連:三ヶ日町研究.

第 24 回カロテノイド研究談話会, 9 月 15 日, 徳島, 2010.

小坂井留美, 道用亘, 金興烈, 安藤富士子, 下方浩史:

高齢期までの運動習慣の継続と体力との関連.

第 65 回日本体力医学会大会, 9 月 18 日, 市川, 2010.

西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ, 福川康之, 安藤富士子, 下方浩史:

地域在住中高年者の開放性と知能:6年間の縦断的検討.
日本心理学会第74回大会, 9月22日, 豊中, 2010.

丹下智香子, 西田裕紀子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ, 福川康之, 安藤富士子,
下方浩史:

成人中・後期におけるライフイベントと主観的幸福感—LSI-K・CES-Dとの関連—.
日本心理学会第74回大会, 9月22日, 豊中, 2010.

大菅陽子, 岡村菊夫, 下方浩史, 安藤富士子:

地域住民における尿失禁の有症率及び排尿後尿滴下についての検討.
第17回日本排尿機能学会, 9月30日, 甲府, 2010.

山下均, 片岡直也, 楠堂達也, 安藤富士子, 下方浩史:

UCP1欠損が動脈硬化の進展に及ぼす影響について.
第31回日本肥満学会, 10月1日, 前橋, 2010.

杉浦彩子, 内田育恵, 下方浩史, 安藤富士子, 中島務:

Klotho 遺伝子多型と聴力—老化に関する長期縦断疫学研究より.
第20回耳科学会総会・学術講演会, 10月7日, 松山, 2010.

山本浩志, 内田育恵, 杉浦彩子, 下方浩史, 安藤富士子, 中島務:

ファブリー病患者における加齢と聴力との関係.
第20回耳科学会総会・学術講演会, 10月7日, 松山, 2010.

内田育恵, 杉浦彩子, 寺西正明, 中島務:

中高年糖尿病教育入院患者における聴力の評価.
第20回耳科学会総会・学術講演会, 10月9日, 松山, 2010.

西尾直樹, 寺西正明, 内田育恵, 杉浦彩子, 下方浩史, 安藤富士子, 曾根三千彦, 大竹

宏直, 加藤健, 吉田忠雄, 多賀谷満彦, 日比達也, 中島務:

補体因子Hと突発性難聴との関連について.

第20回耳科学会総会・学術講演会, 10月9日, 松山, 2010.

寺西正明, 内田育恵, 大竹宏直, 加藤健, 吉田忠雄, 多賀谷満彦, 杉浦彩子, 下方浩史,
中島務:

血管内皮型 NO 合成酵素遺伝子多型と突発性難聴について.
第20回耳科学会総会・学術講演会, 10月9日, 松山, 2010.

松井康素, 竹村真里枝, 原田敦, 安藤富士子, 下方浩史:

骨量減少および骨粗鬆症の発症リスクに及ぼす下肢筋力の影響 —地域在住中高年者
を対象とした疫学縦断調査より.

第11回日本骨粗鬆症学会, 10月21日, 大阪, 2010.

山本浩志, 坪井一哉, 中島務, 内田育恵, 杉浦彩子, 下方浩史, 安藤富士子:
ファブリー病における聴覚障害と同年代一般住民聴力の比較.
第 52 回日本先天代謝異常学会総会, 10 月 23 日, 大阪, 2010.

内田育恵, 中島務:
中高年地域住民における難聴者割合の推移.
第 55 回日本聴覚医学会総会・学術講演会, 11 月 11 日, 奈良, 2010.

安藤富士子, 北村伊都子, 金興烈, 李成喆, 下方浩史:
潜在性慢性炎症と中高年者のサルコペニアに関する縦断的検討.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 13 日, 那覇, 2010.

安藤富士子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 富田真紀子, 下方浩史:
自覚的健康度(SRH)が知能に及ぼす影響—地域在住中高年者における 8 年間の縦断的検討—.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 13 日, 那覇, 2010.

李成喆, 金興烈, 森あさか, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年者の下肢筋力と重心動揺の関連に関する横断的検討.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 13 日, 那覇, 2010.

金興烈, 李成喆, 森あさか, 安藤富士子, 下方浩史:
歩行速度(無次元速度)の性差と年代差に関する考察.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 13 日, 那覇, 2010.

西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 富田真紀子, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年男性における定年退職後の就労と知能に関する縦断的検討.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 14 日, 那覇, 2010.

加藤友紀, 大塚礼, 今井具子, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年者のアミノ酸摂取量が抑うつに及ぼす影響に関する縦断的研究.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 14 日, 那覇, 2010.

丹下智香子, 西田裕紀子, 森山雅子, 富田真紀子, 安藤富士子, 下方浩史:
成人中・後期における日常苛立ち事と主観的幸福感—LSI-K・CES-D との関連—.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 14 日, 那覇, 2010.

森山雅子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 富田真紀子, 安藤富士子, 下方浩史:
地域在住中高年有職者の職種と仕事コミットメントおよび心理的健康との関連.
第 17 回日本未病システム学会学術総会, 11 月 14 日, 那覇, 2010.

大萱陽子, 岡村菊夫, 下方浩史, 大塚礼, 加藤友紀, 今井具子, 安藤富士子:
生活習慣は夜間頻尿の危険因子となるか.

第 60 回日本泌尿器科学会中部総会, 12 月 2 日, 名古屋, 2010.

丹下智香子, 西田裕紀子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ:

成人後期における認知機能と主観的幸福感－認知機能と LSI-K・CES-D の関連の縦断的検討－.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 25 日, 小金井, 2011.

富田真紀子, 西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 坪井さとみ:

中高年有職女性の仕事コミットメントと生活満足度の関連.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 25 日, 小金井, 2011.

西田裕紀子, 丹下智香子, 森山雅子, 富田真紀子, 坪井さとみ:

地域在住中高年者の知能: 10 年間の経時変化.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 25 日, 小金井, 2011.

谷伊織, 五十嵐素子, 森山雅子, 杉本英晴:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(11)－性格特性の 5 因子と時間的展望の関連－.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 27 日, 小金井, 2011.

森山雅子, 杉本英晴, 谷伊織, 五十嵐素子:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(12)－短期大学 2 年間の自尊感情の変化－.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 27 日, 小金井, 2011.

杉本英晴, 谷伊織, 五十嵐素子, 森山雅子:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(13)－仮想的有能感と時間的展望との関連－.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 27 日, 小金井, 2011.

五十嵐素子, 森山雅子, 杉本英晴, 谷伊織:

女子短期大学生の心理的発達に関する縦断研究(14)－学業成績の変化の検討－.

日本発達心理学会第 22 回大会, 3 月 27 日, 小金井, 2011.

4. その他, セミナー等

Shimokata H:

Longitudinal study.

Japan International Cooperation Agency (JICA) lecture, Aug, 26th, Obu, 2010.

下方浩史:

老化に関する長期縦断疫学研究－老化と老年病の予防を目指して.

第 3 回東京アンチエイジングアカデミー, 6 月 5 日, 東京, 2010.

大塚礼:

老化・老年病予防を目的とした栄養疫学研究～認知機能と脂肪酸との関連研究～.
CAMD 報告会, 6 月 10 日, 大府, 2010.

下方浩史:

国立長寿医療センター・老化に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)からみえてくるもの.
第 52 回日本老年社会学会市民公開講座, 6 月 18 日, 大府, 2010.

安藤富士子, 下方浩史:

地域在住中高年者の血清カロテノイドと骨密度に関する大規模疫学研究.
果樹試験研究推進協議会委託試験研究課題成果発表会, 7 月 7 日, 東京, 2010.

下方浩史:

健康長寿を目指して.
知多シニアライオンズクラブ講演会, 8 月 5 日, 大府, 2010.

西田裕紀子:

地域在住高齢者の生きがいと知能－6 年間の縦断的検討－.
2010 年度 NCGG 若手研究者発表会, 8 月 25 日, 大府, 2010.

杉浦彩子:

耳鳴りと脳梗塞の関係について.
2010 年度 NCGG 若手研究者発表会, 8 月 25 日, 大府, 2010.

大菅陽子:

地域住民における夜間頻尿の有症率及び危険因子についての検討.
2010 年度 NCGG 若手研究者発表会, 8 月 25 日, 大府, 2010.

下方浩史:

老化研究からみえてきたこと.
脳を鍛えるリフレッシュ教室健康講座～第 2 回～, 1 月 11 日, 大府, 2011.

下方浩史:

ライフステージに応じた女性の健康状態に関する疫学的研究～10 代から 90 代までの女性を対象とした長期縦断研究.
平成 22 年度循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究研究成果発表会(研究者向け), 2 月 7 日, 東京, 2011.

加藤友紀:

健康長寿を目指した栄養疫学研究の展開.
2010 年度流動研究員研究発表会, 2 月 17 日, 大府, 2011.

李成喆:

健康長寿と身体活動の関連に関する長期縦断疫学研究.
2010 年度流動研究員研究発表会, 2 月 17 日, 大府, 2011.

III. 競争的資金獲得実績

1. 厚生労働省

下方浩史 (代表) 520 万円 (総額 870 万円)

循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業.

ライフステージに応じた女性の健康状態に関する疫学的研究～10 代から 90 代までの女性を対象とした長期縦断研究.

下方浩史 (代表) 1,530 万円 (総額 2,704 万円)

長寿科学総合研究事業.

介護予防の効果検証のための研究－長期コホート研究によるリスク評価と介入研究による検証.

下方浩史 (代表) 2,200 万円 (総額 3,000 万円)

認知症、運動器疾患等の老年病罹患状況及び高齢者の心身状況把握のための長期疫学的調査研究.

下方浩史 (代表) 1,000 万円 (総額 1,100 万円)

NILS－LSAの認知症研究への活用.

下方浩史 (分担) 450 万円

長寿科学総合研究事業.

膝痛・腰痛・骨折に関する高齢者介護予防のための地域代表性を有する大規模住民コホート追跡研究.

下方浩史 (分担) 800 万円

認知症対策総合研究事業.

認知症の実態把握に向けた戦略立案及び予備的研究.

下方浩史 (分担) 320 万円

長寿科学総合研究事業.

高齢者における加齢性筋肉減弱現象(サルコペニア)に関する予防対策確立のための包括的研究.

下方浩史 (分担) 300 万円

政策創薬総合研究事業.

経口脂肪酸摂取によるアルツハイマー病の発症予防法開発に関する研究.

下方浩史 (分担) (代表者一括)

長寿医療研究のための包括的バイオリソース(試料、データ等)バンク構築に関する研究.

下方浩史 (分担)(代表者一括)

高齢者の慢性疾患に伴う低栄養・サルコペニアの評価に関する研究.

2. 文部科学省

下方浩史 (代表)1,450 万円(総額 1,885 万円)

科学研究費 基盤研究(S).

中高年者のこころの健康についての学際的大規模縦断研究—予防への戦略の展開.

大塚礼 (代表)61 万円(総額 61 万円)

科学研究費 若手研究(B).

脂肪酸摂取の認知機能に及ぼす影響に関する長期縦断疫学研究.

加藤友紀 (代表)104 万円(総額 104 万円)

科学研究費 若手研究(B).

中高年者のアミノ酸摂取と抑うつに及ぼす影響に関する大規模長期縦断疫学研究.

西田裕紀子 (代表)120 万円(総額 120 万円)

科学研究費 挑戦的萌芽研究.

定年退職期の生活構造の変化と心理的健康に関する学際的縦断研究.

丹下智香子 (代表)91 万円(総額 91 万円)

科学研究費 若手研究(B).

サクセスフル・エイジングの心理的側面への直接影響要因およびその緩衝要因の解明.

下方浩史 (分担)34 万円

科学研究費 基盤研究(C).

栄養補助食品の利用状況の把握から食行動・社会環境把握への展開.

下方浩史 (分担)30 万円

科学研究費 基盤研究(C).

「祖母仮説」の検討を通じた高齢者の長寿ならびに適応に関する研究.

下方浩史 (分担)200 万円

科学研究費 基盤研究(B).

突発性難聴における血液迷路関門の破綻と血管障害関連遺伝子.

3. 財団, その他

下方浩史 (分担)211 万円

抗体チップを用いた未病検査システムの開発.